

2016年4月27日
株式会社日本政策金融公庫

生活衛生関係営業の景況、緩やかに持ち直しの動きが続く

生活衛生関係営業の景気動向等調査結果（2016年1～3月期）

<業況判断DI>（2ページ）

- 業況判断DIは、前期から9.0ポイント低下して▲24.4となった。前年同期に対しては6.9ポイント上回り、4期連続で前年同期の水準を上回った。
- 「飲食業」が▲22.9（前年同期比6.0ポイント上昇）、「映画館」が16.1（前年同期比34.6ポイント上昇）、「ホテル・旅館業」が▲5.8（前年同期比19.2ポイント上昇）と改善傾向が顕著。
- 来期の見通しは▲8.8となり、15.6ポイントの上昇を見込んでいる。

<売上DI>（3ページ）

- 売上DIは、前期から3.8ポイント低下して▲20.1となった。前年同期に対しては2.7ポイント上回り、12期連続で前年同期の水準を上回った。
- 来期の見通しは▲12.3となり、7.8ポイントの上昇を見込んでいる。

<採算DI>（4ページ）

- 採算DIは、前期から4.4ポイント低下して▲8.6となった。前年同期に対しては3.2ポイント上回り、12期連続で前年同期の水準を上回った。
- ⇒業況判断DIは4期連続、売上DIは12期連続、採算DIは12期連続で前年同期を上回る。

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 国民生活事業本部 生活衛生融資部
生活衛生情報支援グループ 担当：竹迫、小沢 TEL 03-3270-1653

【調査の実施要領】

調査時点	2016年3月上旬			
調査方法	郵送調査			
調査対象	生活衛生関係営業 3,220企業			
有効回答企業数	3,012企業（回答率 93.5%）			
（業種内訳）	飲食業	1,426 企業	映画館	56 企業
	食肉・食鳥肉販売業	138 企業	ホテル・旅館業	172 企業
	氷雪販売業	57 企業	公衆浴場業	114 企業
	理容業	367 企業	クリーニング業	253 企業
	美容業	429 企業		

【本調査における留意事項】

- 2012年4～6月期調査時点で調査対象企業の見直しが行われている。
- 比率の算出にあたっては、無回答を除いたものを母数としている。

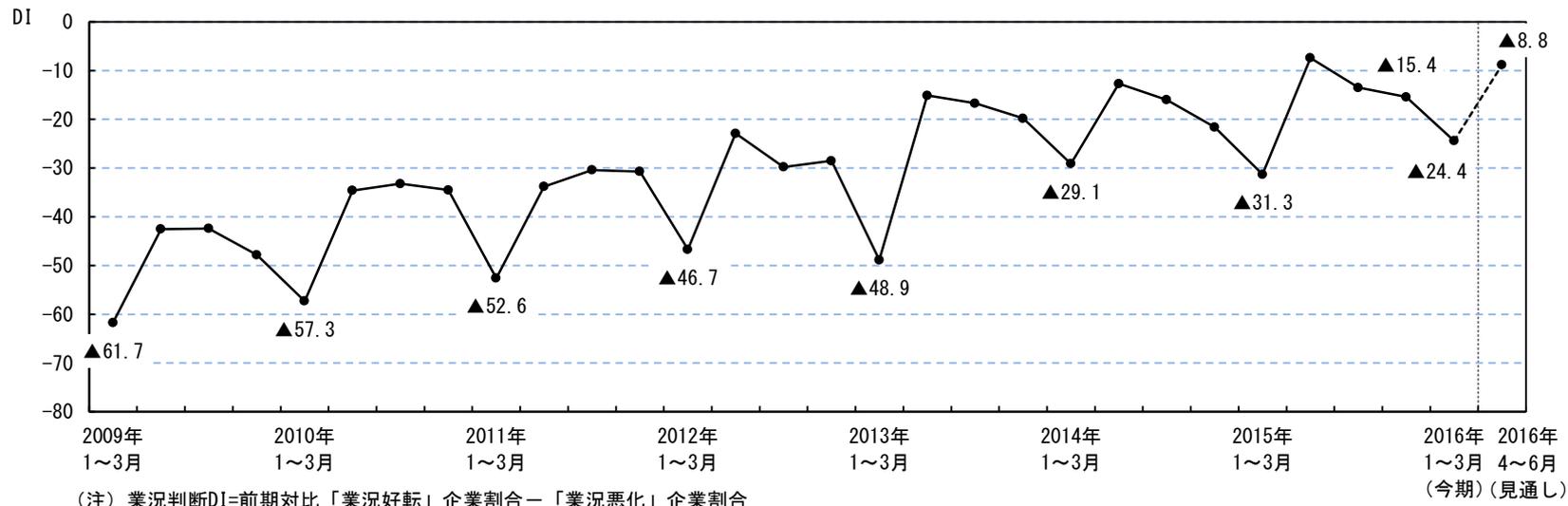
I 景気の動向

1. 業況判断

- 業況判断DIは、前期から9.0ポイント低下して▲24.4となった。前年同期に対しては6.9ポイント上回り、4期連続で前年同期の水準を上回った。

来期の見通しは▲8.8となり、15.6ポイントの上昇を見込んでいる。

参考1 業況判断DIの推移（全業種計）



参考2 業種別業況判断DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2015年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	2016年 1～3月 (今期)	4～6月 (見通し)
食肉・食鳥肉	▲ 26.6	▲ 4.8	▲ 4.1	2.8	▲ 17.4	▲ 10.9
氷 雪	▲ 55.4	8.5	34.5	▲ 48.2	▲ 49.1	8.8
理 容	▲ 40.1	▲ 9.3	▲ 15.5	▲ 25.9	▲ 31.6	▲ 13.9
美 容	▲ 30.1	▲ 15.0	▲ 16.1	▲ 21.0	▲ 28.0	▲ 11.2
映 画 館	▲ 18.5	▲ 5.8	41.1	▲ 22.8	16.1	▲ 1.8
ホテル・旅館	▲ 25.0	5.9	17.1	21.5	▲ 5.8	0.0
公衆浴場	▲ 5.5	▲ 30.4	▲ 17.5	▲ 16.1	▲ 2.6	▲ 7.0
クリーニング	▲ 49.6	21.3	▲ 44.7	▲ 8.5	▲ 46.6	▲ 4.3

参考3 飲食業業況判断DIの推移

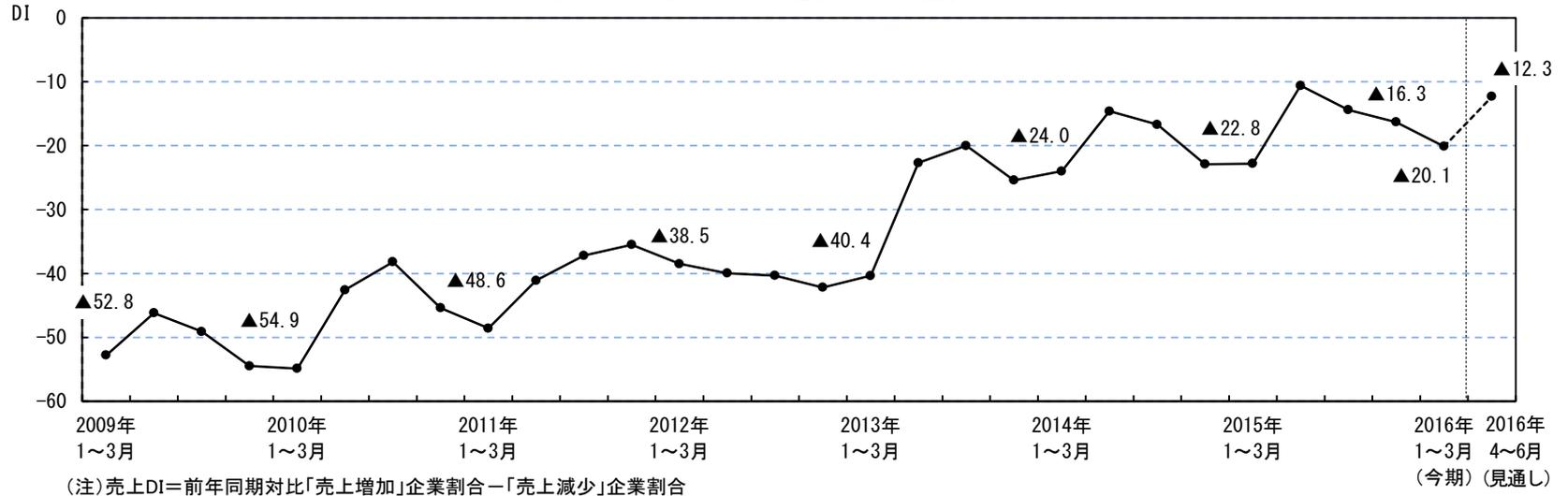
凡例	2015年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	2016年 1～3月 (今期)	4～6月 (見通し)
飲食業（全体）	▲ 28.9	▲ 10.5	▲ 14.8	▲ 16.8	▲ 22.9	▲ 9.5
そば・うどん	▲ 37.0	3.9	▲ 7.1	▲ 21.3	▲ 29.1	▲ 2.3
中華料理	▲ 22.2	▲ 15.6	▲ 11.0	▲ 13.3	▲ 10.2	▲ 10.7
す し	▲ 25.8	▲ 18.2	▲ 17.0	▲ 14.3	▲ 15.7	▲ 14.6
料 理	▲ 21.2	▲ 8.8	▲ 25.7	▲ 8.8	▲ 22.1	▲ 6.1
喫 茶	▲ 32.0	▲ 12.6	▲ 11.8	▲ 20.4	▲ 26.7	▲ 9.4
社 交	▲ 37.0	▲ 19.4	▲ 26.8	▲ 17.5	▲ 24.2	▲ 14.1
その他飲食	▲ 27.3	▲ 6.6	▲ 10.7	▲ 18.2	▲ 26.9	▲ 8.5

2. 売上

- 売上DIは、前期から3.8ポイント低下して▲20.1となった。前年同期に対しては2.7ポイント上回り、12期連続で前年同期の水準を上回った。

来期の見通しは▲12.3となり、7.8ポイントの上昇を見込んでいる。

参考4 売上DIの推移（全業種計）



参考5 業種別売上DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2016年 1~3月 (今期)	4~6月 (見通し)
食肉・食鳥肉	6.3	21.9	15.9	23.9	10.1	3.6
氷 雪	▲ 39.3	▲ 8.5	23.6	▲ 12.5	▲ 26.3	5.3
理 容	▲ 40.9	▲ 24.8	▲ 29.2	▲ 30.3	▲ 33.7	▲ 22.7
美 容	▲ 24.8	▲ 19.7	▲ 22.5	▲ 26.6	▲ 30.4	▲ 17.1
映 画 館	▲ 31.5	▲ 40.4	3.6	3.5	14.3	5.4
ホテル・旅館	▲ 12.2	14.8	12.9	14.5	11.7	▲ 4.1
公衆浴場	▲ 11.9	▲ 28.7	▲ 33.3	▲ 26.8	▲ 21.1	▲ 19.3
クリーニング	▲ 33.6	▲ 5.0	▲ 20.5	▲ 24.4	▲ 32.0	▲ 11.5

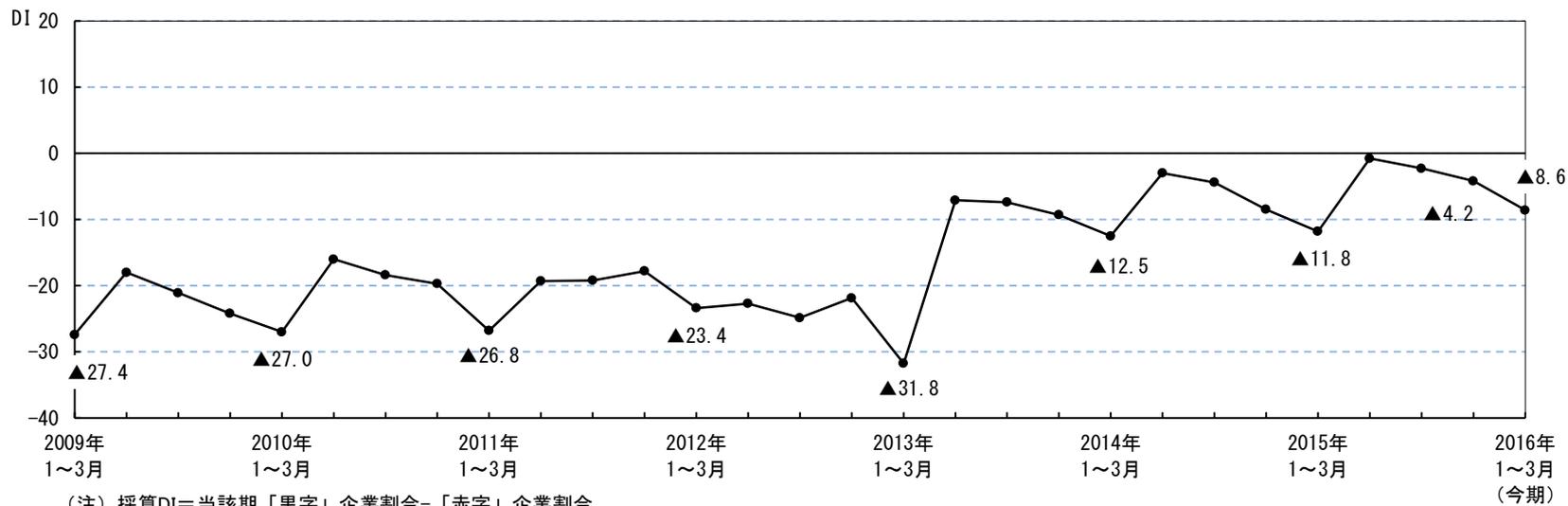
参考6 飲食業売上DIの推移

凡例	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2016年 1~3月 (今期)	4~6月 (見通し)
飲食業（全体）	▲ 19.7	▲ 9.0	▲ 14.0	▲ 16.0	▲ 19.2	▲ 11.6
そば・うどん	▲ 10.6	7.8	▲ 8.7	▲ 10.2	▲ 14.9	▲ 6.3
中華料理	▲ 16.2	▲ 11.2	▲ 6.7	▲ 4.0	▲ 7.3	▲ 8.5
す し	▲ 17.0	▲ 12.0	▲ 18.6	▲ 20.3	▲ 24.2	▲ 15.2
料 理	▲ 27.6	▲ 16.4	▲ 20.3	▲ 14.1	▲ 25.4	▲ 13.8
喫 茶	▲ 25.0	▲ 8.7	▲ 16.9	▲ 20.6	▲ 23.2	▲ 13.0
社 交	▲ 27.3	▲ 15.2	▲ 24.9	▲ 33.5	▲ 26.9	▲ 19.2
その他飲食	▲ 18.0	▲ 8.5	▲ 8.4	▲ 11.7	▲ 16.4	▲ 8.6

3. 採算

- 採算DIは、前期から4.4ポイント低下して▲8.6となった。前年同期に対しては3.2ポイント上回り、12期連続で前年同期の水準を上回った。

参考7 採算DIの推移（全業種計）



参考8 業種別採算DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2015年1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2016年1~3月 (今期)
食肉・食鳥肉	2.8	4.1	8.2	9.9	11.6
氷雪	▲21.4	▲5.1	38.2	3.6	▲22.8
理容	▲13.8	▲1.1	▲0.3	▲7.0	▲9.3
美容	▲4.4	0.7	▲2.3	▲5.3	▲5.1
映画館	▲11.1	▲1.9	19.6	▲15.8	5.4
ホテル・旅館	▲7.3	7.1	10.6	24.4	12.2
公衆浴場	▲5.5	▲15.7	▲13.2	▲10.7	▲7.9
クリーニング	▲31.7	21.3	▲7.8	1.2	▲24.5

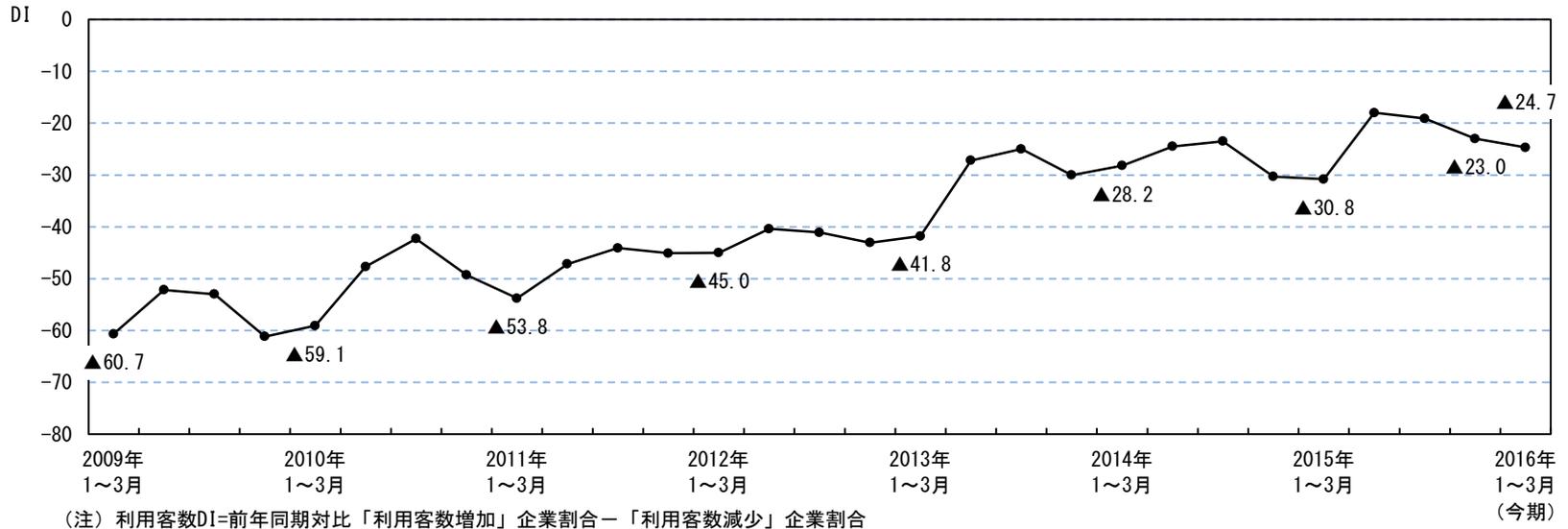
参考9 飲食業採算DIの推移

凡例	2015年1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2016年1~3月 (今期)
飲食業（全体）	▲12.2	▲5.2	▲5.9	▲8.3	▲11.2
そば・うどん	▲6.1	5.6	4.9	▲0.5	▲9.1
中華料理	▲9.7	▲2.8	▲2.2	▲3.5	▲1.7
すし	▲11.0	▲12.5	▲9.6	▲11.0	▲12.4
料理	▲11.6	▲10.9	▲20.7	▲7.4	▲10.7
喫茶	▲21.9	▲14.9	▲8.4	▲18.8	▲24.4
社交	▲15.2	▲7.0	▲8.2	▲13.4	▲11.6
その他飲食	▲11.1	▲0.5	▲3.4	▲6.0	▲9.6

4. 利用客数

- 利用客数DIは、前期から1.7ポイント低下して▲24.7となった。前年同期に対しては6.1ポイント上回り、4期連続で前年同期の水準を上回った。

参考10 利用客数DIの推移（全業種計）



参考11 業種別利用客数DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2015年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	2016年 1～3月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 15.4	▲ 2.1	▲ 4.1	2.8	▲ 2.2
氷 雪	▲ 39.3	▲ 13.6	▲ 1.8	▲ 26.8	▲ 35.1
理 容	▲ 43.4	▲ 27.5	▲ 31.6	▲ 38.6	▲ 36.7
美 容	▲ 38.3	▲ 29.9	▲ 28.3	▲ 34.4	▲ 36.9
映 画 館	▲ 35.2	▲ 36.5	5.4	19.3	16.1
ホテル・旅館	▲ 11.6	4.7	9.4	6.4	1.2
公衆浴場	▲ 33.0	▲ 39.1	▲ 38.6	▲ 36.6	▲ 25.4
クリーニング	▲ 42.0	▲ 13.6	▲ 23.2	▲ 24.4	▲ 31.6

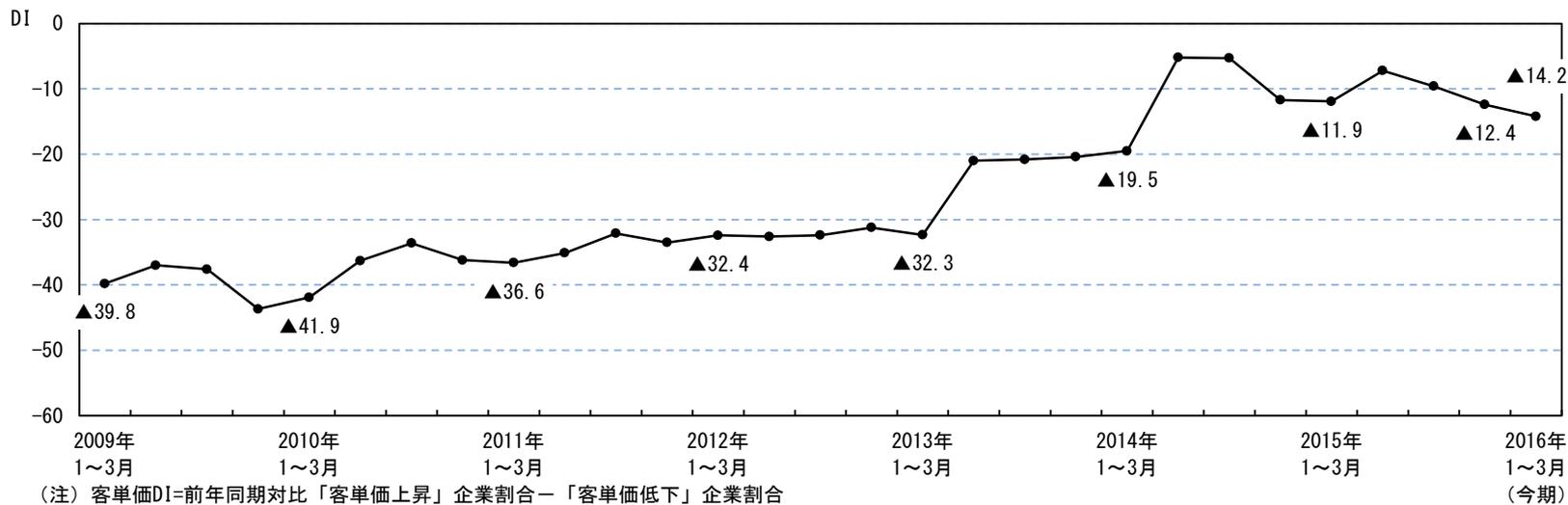
参考12 飲食業利用客数DIの推移

凡例	2015年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	2016年 1～3月 (今期)
飲食業（全体）	▲ 26.5	▲ 14.9	▲ 17.4	▲ 21.8	▲ 23.1
そば・うどん	▲ 21.7	▲ 1.7	▲ 8.2	▲ 21.0	▲ 17.1
中華料理	▲ 19.7	▲ 14.0	▲ 9.4	▲ 8.7	▲ 11.3
す し	▲ 29.1	▲ 14.7	▲ 18.1	▲ 22.5	▲ 27.5
料 理	▲ 20.0	▲ 19.9	▲ 26.1	▲ 19.3	▲ 24.6
喫 茶	▲ 31.8	▲ 20.8	▲ 24.9	▲ 32.2	▲ 35.0
社 交	▲ 35.0	▲ 23.4	▲ 34.2	▲ 34.5	▲ 28.5
その他飲食	▲ 26.5	▲ 12.9	▲ 10.0	▲ 17.5	▲ 20.4

5. 客単価

- 客単価DIは、前期から1.8ポイント低下して▲14.2となった。前年同期に対しては2.3ポイント下回り、4期連続で前年同期の水準を下回った。

参考13 客単価DIの推移（全業種計）



参考14 業種別客単価DIの推移（飲食業を除く）

凡例	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2016年 1~3月 (今期)
食肉・食鳥肉	▲ 11.2	▲ 2.1	1.4	▲ 4.9	▲ 2.9
氷 雪	▲ 25.0	▲ 11.9	0.0	▲ 8.9	▲ 10.5
理 容	▲ 11.9	▲ 10.8	▲ 15.5	▲ 14.9	▲ 16.7
美 容	▲ 10.3	▲ 8.1	▲ 14.5	▲ 16.9	▲ 17.3
映 画 館	7.4	▲ 9.6	0.0	5.3	▲ 5.4
ホテル・旅館	▲ 0.6	8.9	13.5	10.5	4.7
公衆浴場	17.4	0.0	▲ 7.0	▲ 16.1	▲ 12.3
クリーニング	▲ 31.6	▲ 12.4	▲ 22.0	▲ 22.1	▲ 34.8

参考15 飲食業客単価DIの推移

凡例	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2016年 1~3月 (今期)
飲食業（全体）	▲ 12.7	▲ 7.8	▲ 9.2	▲ 12.8	▲ 13.0
そば・うどん	1.1	▲ 0.6	▲ 3.3	▲ 6.5	▲ 11.4
中華料理	▲ 10.4	▲ 10.7	▲ 10.0	▲ 12.7	▲ 13.0
す し	▲ 17.6	▲ 4.2	▲ 9.6	▲ 7.1	▲ 11.8
料 理	▲ 6.2	▲ 12.3	▲ 18.8	▲ 15.6	▲ 13.8
喫 茶	▲ 18.8	▲ 4.0	▲ 7.3	▲ 17.2	▲ 8.5
社 交	▲ 17.5	▲ 13.6	▲ 15.0	▲ 22.2	▲ 20.2
その他飲食	▲ 15.2	▲ 8.7	▲ 5.8	▲ 10.7	▲ 12.3

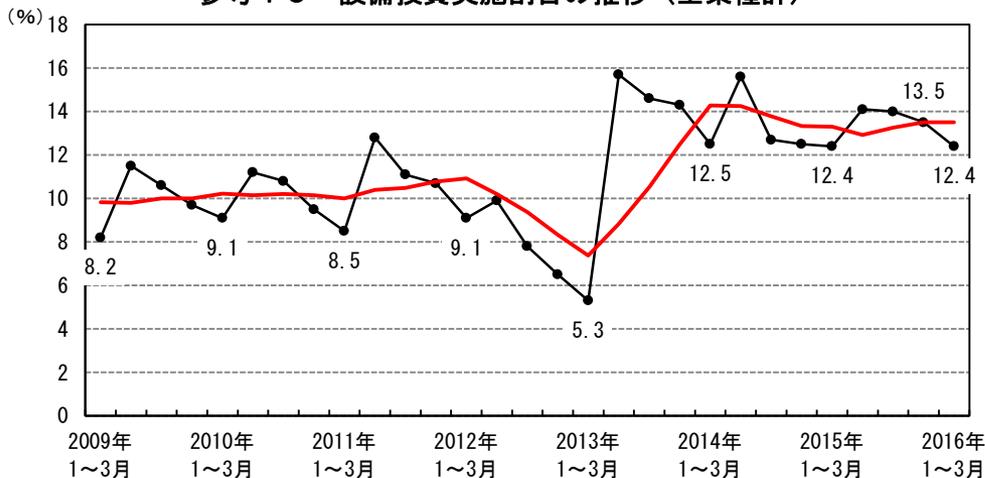
II 設備投資の動向

1. 設備投資の実施状況

今期(2016年1~3月期)に設備投資を行った企業の割合は12.4%と前期(13.5%)に比べ1.1ポイント低下した。前年同期(12.4%)に対しては横ばいとなった。

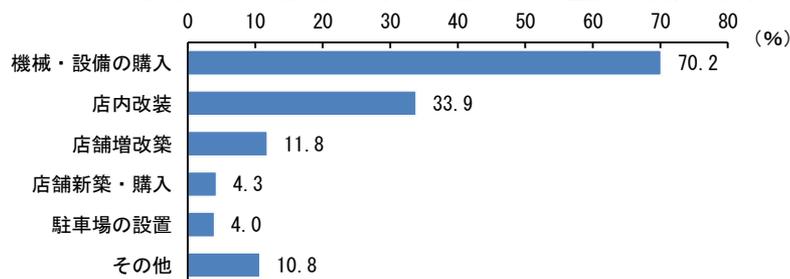
生活衛生関係営業の設備投資は、持ち直しの動きが続いている。

参考16 設備投資実施割合の推移(全業種計)

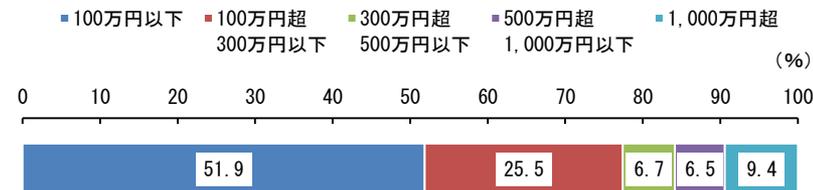


(注) 赤線は4期間移動平均の推移である。

参考17 設備投資の内容(全業種計、複数回答)



参考18 設備投資金額(全業種計)



参考19 業種別設備投資実施割合の推移(飲食業を除く) (%)

凡例	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2016年 1~3月 (今期)
食肉・食鳥肉	15.4	20.4	19.9	18.3	13.0
氷 雪	5.4	6.8	9.1	7.1	8.8
理 容	6.4	11.7	9.9	8.1	5.7
美 容	11.3	12.9	9.6	12.0	10.0
映 画 館	14.8	17.3	19.6	17.5	16.1
ホテル・旅館	33.5	34.9	40.6	31.4	39.5
公衆浴場	15.6	21.7	18.4	25.0	24.6
クリーニング	15.5	12.0	11.0	11.2	13.4

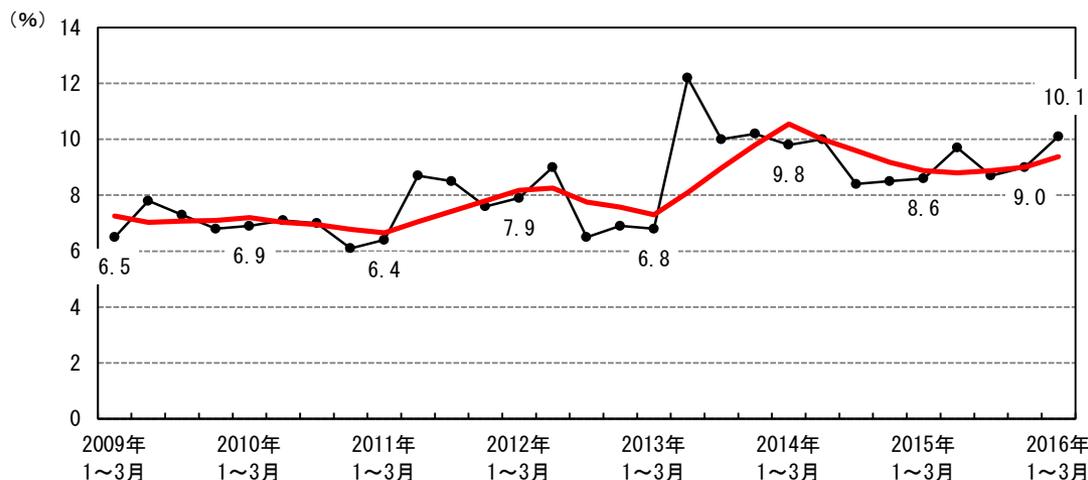
参考20 飲食業設備投資実施割合の推移 (%)

凡例	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2016年 1~3月 (今期)
飲食業(全体)	10.9	11.9	12.8	12.3	10.2
そば・うどん	12.7	15.6	13.1	13.3	8.6
中華料理	11.4	12.8	13.8	14.5	10.7
す し	12.1	9.4	18.1	13.2	12.4
料 理	16.4	22.4	20.0	19.9	13.7
喫 茶	7.3	8.6	11.2	8.3	9.4
社 交	7.6	4.3	5.7	6.2	7.1
その他飲食	10.4	12.2	11.5	12.7	10.6

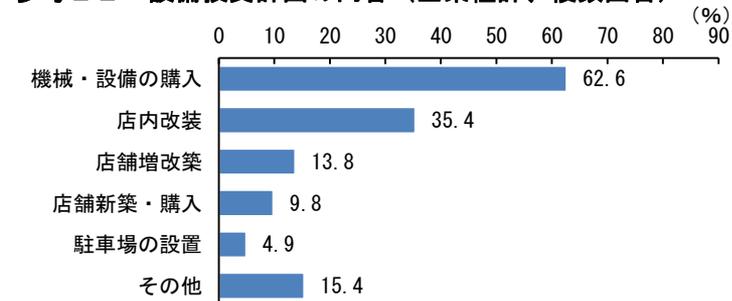
2. 来期以降1年間の設備投資計画

- 来期以降1年間の設備投資計画については、「予定あり」10.1%、「未定」20.9%、「予定なし」69.0%となっている。
- 設備投資を「予定あり」とする企業を業種別に高い順にみると、「ホテル・旅館業」32.6%、「映画館」21.4%、「公衆浴場業」16.7%となっている。

参考2-1 設備投資計画の実施予定割合の推移（全業種計）



参考2-2 設備投資計画の内容（全業種計、複数回答）



参考2-3 設備投資予定金額（全業種計）



参考2-4 業種別設備投資計画の実施予定割合の推移（飲食業を除く）

凡例	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2016年 1~3月 (今期)
食肉・食鳥肉	6.3	9.5	13.7	12.0	7.2
氷 雪	10.7	3.4	5.5	14.3	8.8
理 容	4.4	6.4	5.1	5.7	4.9
美 容	7.2	7.4	5.5	4.6	8.4
映 画 館	16.7	19.2	17.9	14.0	21.4
ホテル・旅館	29.3	30.2	24.7	29.7	32.6
公衆浴場	21.1	20.0	13.2	15.2	16.7
クリーニング	5.6	9.3	10.2	10.5	10.7

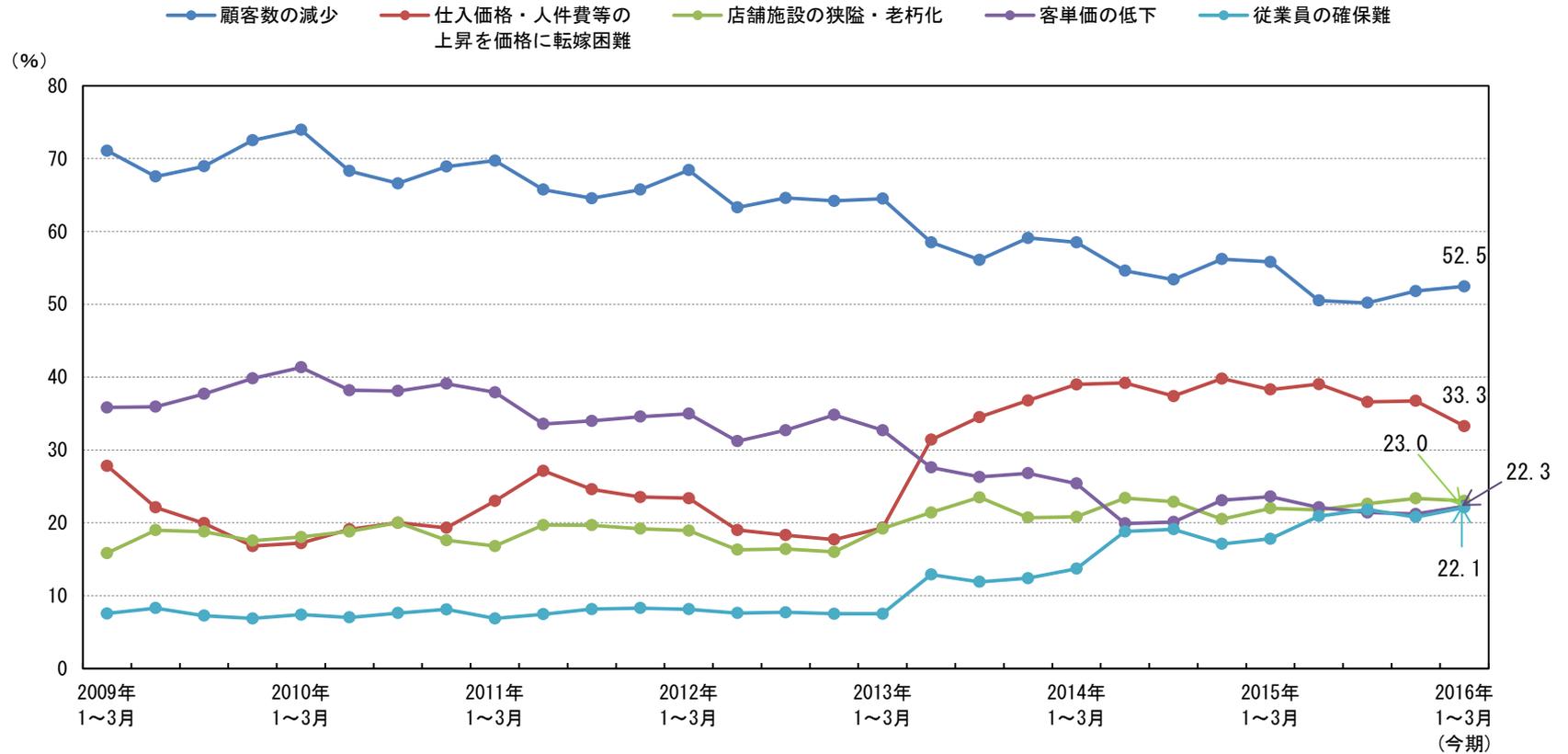
参考2-5 飲食業設備投資計画の実施予定割合の推移

凡例	2015年 1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	2016年 1~3月 (今期)
飲食業（全体）	7.1	8.1	7.5	7.4	8.6
そば・うどん	6.6	10.0	4.9	4.8	8.6
中華料理	6.8	6.7	8.8	9.8	10.7
す し	4.4	5.2	8.0	6.6	8.4
料 理	11.0	15.0	12.1	12.5	13.7
喫 茶	6.2	5.2	6.2	6.1	7.8
社 交	5.4	6.5	4.1	3.6	4.0
その他飲食	8.3	8.6	8.3	8.6	8.5

Ⅲ 経営上の問題点

- 経営上の問題点で多いものを順にみると、「顧客数の減少」52.5%、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」33.3%、「店舗施設の狭隘・老朽化」23.0%、「客単価の低下」22.3%、「従業員の確保難」22.1%となっている。

参考26 主な経営上の問題点の推移（全業種計、複数回答）



参考 2 7 経営上の問題点（業種別、2016年1～3月）

(%)

項 目	顧客数の減少	仕入価格・人件費の転嫁を困難にする	店舗施設の狭隘・老朽化	客単価の減少	従業員の確保難	後継者難	事業資金借入難	その他	特に問題なし
業 種 合 計	52.5	33.3	23.0	22.3	22.1	10.8	3.3	4.6	7.5
飲食業合計	46.2	44.5	20.3	20.5	25.5	10.4	3.9	3.2	6.8
そば・うどん店	41.7	51.4	19.4	15.4	32.6	12.6	5.1	3.4	4.0
中華料理店	37.3	48.6	24.9	25.4	20.9	14.7	3.4	1.7	7.3
すし店	47.8	40.4	20.8	19.7	24.7	12.4	3.9	3.9	7.3
料理店	48.9	35.1	19.8	32.1	26.7	6.1	5.3	2.3	6.1
喫茶店	56.7	51.7	26.1	15.6	14.4	8.3	1.1	4.4	5.6
社交業	51.0	31.8	16.7	23.2	27.3	9.6	3.0	3.5	10.6
その他飲食店	43.4	47.8	17.8	17.8	28.4	9.3	4.7	2.8	6.5
食肉・食鳥肉販売業	26.8	59.4	23.2	15.9	26.8	13.8	2.2	2.9	5.8
冰雪販売業	57.9	21.1	19.3	22.8	12.3	26.3	5.3	5.3	8.8
理容業	70.0	16.6	18.5	27.5	12.0	10.4	1.6	7.4	11.2
美容業	64.3	17.7	17.2	24.9	23.1	9.3	3.0	6.3	10.0
映画館	46.4	21.4	46.4	5.4	33.9	7.1	7.1	5.4	3.6
ホテル・旅館業	34.3	28.5	47.7	12.2	37.2	7.6	3.5	4.7	4.1
公衆浴場業	66.7	17.5	54.4	6.1	2.6	17.5	3.5	7.0	4.4
クリーニング業	62.1	21.7	19.0	41.5	11.9	11.1	2.0	5.9	7.5

(注)複数回答のため合計は100を超える。

IV 地域の特徴的な動きと 経営取り組み事例

(業況に対する判断理由(今期および来期見通し)より抜粋)

今期：2016年1～3月期
来期：2016年4～6月期

1. 地域の特徴的な動き

(1) 北海道

都道府県	業種	業況	判断理由
北海道	公衆浴場業	悪化 (今期)	今冬は寒波が厳しく利用が一番多い高齢のお客様が減った。ただ、働き盛りの方の利用は堅調であった。家族従事者の給与を減少して対応した。
北海道	そば・うどん店	不変 (来期)	外国人観光客が少しずつ増加し高価なメニューを注文してくれる。その数を増やしていければと期待している。

(2) 北東北（青森県、岩手県、秋田県）

都道府県	業種	業況	判断理由
青森県	そば・うどん店	好転 (来期)	東北六魂祭が開催される予定であり、中国との定期便の就航も始まるので見通しは明るい。
岩手県	社交業	好転 (来期)	岩手国体への期待からであり、決して良くなると言えないのだが、好転してほしい。
秋田県	食肉販売業	悪化 (来期)	牛肉、鶏肉の相場が高い状態はまだ続くと思われる。もともと頭数が少ないため、さらに上昇するかもしれない。

(3) 南東北（宮城県、山形県、福島県）

都道府県	業種	業況	判断理由
宮城県	すし店	悪化 (来期)	食材の魚種が変化しており、質の安定を維持できず、お客様への提供も例年通りにならない。客入りは前年割れが続いているが地下鉄の開業による利用者の増加に期待したい。
山形県	理容業	不変 (今期)	暖冬で12月までは例年より良かったが、1月中旬からの寒波で例年並みに戻った。
福島県	ホテル・旅館業	好転 (今期)	県内の風評被害対策の充実と、全国的なふるさと旅行券や銀行の株主優待券制度による宿泊への誘導により、稼働率が上がっており、より安定した経営ができた。また、人件費を削減しながらもサービスの充実が図れたことが好転の要因である。

(4) 北関東（茨城県、栃木県、埼玉県、群馬県）

都道府県	業種	業況	判断理由
茨城県	ホテル・旅館業	好転 (来期)	中高年が比較的活発に出歩く姿を見かける。観光関連の支出が伸びているのもうなずける。
栃木県	中華料理店	不変 (今期)	野菜類の価格も下がってきており、仕入価格は全体的に落ち着いてきている。利用客数も変わらず、業況は不変と言える。
埼玉県	その他飲食店	不変 (今期)	観光施設内にあるため、今年は天候にも恵まれ、気温も穏やかだったので、施設の来場者も多く、当店への来客も順調に伸びた。
群馬県	ホテル・旅館業	悪化 (今期)	例年ワカサギ釣の客が訪れる赤城大沼が、今年は暖冬の影響を受けて湖面の完全結氷が約1ヶ月遅れ、1月末まで氷上ワカサギ釣りが出来ない状態だった。

(5) 信越（新潟県、長野県）

都道府県	業種	業況	判断理由
新潟県	中華料理店	不変 (今期)	新年のムードで多少売上は上がったが、急な大雪などの気候の不安定もあり、売上は乱高下し前期比としては不変。気候の安定は売上の重要なポイントとなる。
長野県	理容業	悪化 (今期)	毎年のことだが、今期は休業日も多く、営業日数が少ない。また、1～2月は氷点下の日が毎日続き客足も遠くなり売上減少の要因になった。

(6) 南関東（東京都、千葉県、神奈川県、山梨県）

都道府県	業種	業況	判断理由
東京都	冰雪販売業	不変 (来期)	景気回復に一服感があり来期についてはあまり大きな伸びは期待できない。
千葉県	クリーニング業	好転 (今期)	石油価格下落の為、燃料が安くなった。今のオイル安で、このまま数年続けばと思う。なお、今年は暖冬のように、寒気が来ないと厚物が春に出ないので心配である。

(7) 北陸（富山県、石川県、福井県）

都道府県	業種	業況	判断理由
富山県	映画館	好転 (今期)	地元ロケ作品（「人生の約束」）のため大入り盛況だった。
石川県	その他飲食店	好転 (今期)	飲食店は天候に左右されるが、良い天気が続いたので、お客の入りが非常に良かった。
福井県	そば・うどん店	好転 (来期)	金沢まで北陸新幹線が開通したため、石川ナンバーの車が多くなったように思う。また、地元新聞に頑張っている店というような記事で大々的に紹介してもらいお客さまが増えてきている。

(8) 東海（岐阜県、静岡県、愛知県、三重県）

都道府県	業種	業況	判断理由
岐阜県	食肉販売業	悪化 (今期)	牛肉の需要期（第3四半期）が終わったので、反動減となった。国産和牛の生産不足が続いており、仕入価格の高騰を、価格に転嫁すれば消費者離れにつながるおそれがあり、価格に転嫁できない厳しい状況である。
静岡県	喫茶店	不変 (今期)	喫茶店に来店する客の目的が、コーヒーや食事だけではなく、喫煙目的が多くなった。以前のように、美味しいコーヒーを飲みたいという客はほとんどいなくなり、喫茶店=コーヒーの時代は終わりつつあると感じている。
愛知県	中華料理店	不変 (来期)	中国人観光客専門のホテルが近く出来る予定があり、少し期待している。
三重県	ホテル・旅館業	不変 (今期)	1月は前年より僅かながら好転したが、2・3月は最近の金融経済不安が大変懸念される。

(9) 北近畿（滋賀県、京都府、兵庫県）

都道府県	業種	業況	判断理由
滋賀県	食肉販売業	悪化 (来期)	仕入価格の上昇から値頃感が低下しつつあり、価格に対する抵抗感が薄れるまで、暫くの間量的拡大は期待できそうにない。
京都府	ホテル・旅館業	悪化 (今期)	季節変動の大きい事業なので、年間での上下動は激しい。当期は底の期だが、アジアからのお客様数が減ったため数字的にはダメージが大きい。
兵庫県	その他飲食店	好転 (来期)	甲子園球場での様々な催しが始まり客数の増加が期待できる。

(10) 南近畿（大阪府、奈良県、和歌山県）

都道府県	業種	業況	判断理由
大阪府	ホテル・旅館業	不変 (今期)	訪日外国人の勢いは依然好調で客室稼働率も高水準を維持しているものの、贅沢な悩みかもしれないが、これ以上伸びる余地は少ないと思われる。先々のことを思うと安易な宿泊代値上げにも踏み切れない。
奈良県	ホテル・旅館業	好転 (今期)	東アジアを中心としたインバウンド客の増加に加え、ふるさと旅行券を使って宿泊する日本人客のおかげで好調を維持している。
和歌山県	ホテル・旅館業	悪化 (今期)	前期は国体宿泊客の受け入れの特殊事情で売上高は大幅に増加したが、今期は特殊要因なく大幅減少となったので業況悪化。

(11) 中国（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県）

都道府県	業種	業況	判断理由
鳥取県	ホテル・旅館業	不変 (今期)	鳥取県の「ウェルカニキャンペーン」のおかげで少人数ながら、客足が途絶えることが無かった。
島根県	そば・うどん店	不変 (今期)	松江城の国宝化で増えた客足も冬を迎えて一段落した。今期はシーズンの縮小傾向だが、「松江食まつり」で好転を期待。
広島県	映画館	悪化 (今期)	夏興行が近年にない大ヒット作に恵まれ好評であったが、それに比べ秋口からはこれといったヒット作も無いことから、売上はダウンした。
山口県	喫茶店	不変 (今期)	暖冬と大河ドラマの影響、タウン誌の宣伝効果などのお陰で売上も順調に伸びている。しかし、仕入原材料の値上がりや諸経費の上昇によって利益率が多少下がりがつつある。

(12) 四国（徳島県、香川県、愛媛県、高知県）

都道府県	業種	業況	判断理由
徳島県	ホテル・旅館業	悪化 (今期)	平成27年10月、徳島駅前に全国チェーンのホテルがオープンした。その影響を受け利用宿泊者数は減少している。
香川県	ホテル・旅館業	不変 (今期)	今期は、1月は少なく、2月は上昇、3月は横ばいである。3月の最終も瀬戸内国際芸術祭スタートがあるものの当ホテルには大きく寄与しないものと想定している。
愛媛県	料理店	悪化 (今期)	株式市況の悪化、中国経済への不安等から何となく消費者の気持ちが落ち込んでいるよう思える。街を歩く人も減ってきたように思える。客単価の低下、仕入れ値のアップ等逆風が吹いているように感じる。悪化の方向に進むと思う。
高知県	料理店	悪化 (来期)	来期は宴会宿泊とも動きの少ない季節に入るのでとても不安である。北へ北へ新幹線が延伸していく分、四国は取り残されるばかりである。だがランチメニューの見直しを図り何とか持ち直すべく頑張りたい。

(13) 九州北（福岡県、佐賀県、長崎県、大分県）

都道府県	業種	業況	判断理由
福岡県	その他飲食店	不変 (今期)	景気の落ち込みにより、周辺企業の残業が減り、特に夜の来客が激減した。また、仕入原価や人件費の高騰、求人費用の負担による収益の低下もあり、期間限定のクーポンを配布するなどして業況の維持に努めている。
長崎県	ホテル・旅館業	好転 (今期)	産業遺産、ランタンフェスティバルの効果で宿泊客が増加している。オフ期にもかかわらずビジネス客も好調である。
大分県	その他飲食店	悪化 (今期)	飲食店において値上げはなかなか手のつけられないところであり、仕入値が上昇しているにもかかわらず価格に転嫁できない。安定した営業のため人員確保が大変重要でありアルバイト、パートの時給アップなどが経営を圧迫している。

(14) 南九州（熊本県、宮崎県、鹿児島県）

都道府県	業種	業況	判断理由
熊本県	クリーニング業	悪化 (今期)	地域プレミアム商品券の期限も終了したこと、また、閑散期に入りクリーニング需要が減っている。
宮崎県	すし店	不変 (今期)	2月にプロ野球やサッカー等のキャンプがあるので観光客も増え、また、3月には送別会もあるので、年末の繁忙期と変わらない。
鹿児島県	喫茶店	悪化 (今期)	鹿児島の商圈が従来の天文館一極集中から分散化し、天文館周辺の客足が減少したこと、さらには近辺へのコンビニ店の進出により競争が激化したこともあって業況は厳しくなった。

2. 経営取り組み事例（業種別）

業種	都道府県	内容
そば・うどん店	山形県	価格を見直して、顧客の満足するメニューを作るなどメニューの見直しを行い、サービスを向上した。また、固定客の囲い込みのために新たにポイントカード制を導入したところ、リピーターや家族連れの客が増加し、業況の好転につながった。
中華料理店	岩手県	ふるさと納税の特産品に出品し、認定された。これを期にホームページを年間14,500円のコストでショッピング利用できるように改善した。
すし店	岐阜県	寿司1人前のネタの内容を一般客受けするネタに変更し、旬の物を1~2種類入れる内容に変更したことが、お客様の嗜好に合っていたように思われる。また、原価率を高めにし、値打ち感を出したことも功を奏した。
料理店	広島県	法事等の料理の仕出しを確保できるよう、日頃から神社や進物店等への情報提供を欠かさず行うことで、顧客の確保等を行う。
喫茶店	兵庫県	高齢者の顧客が多く、営業時間帯をAM6:30~PM5:00に変更し、朝に重点を置きモーニングメニューを充実させたところ売上増加に繋がった。
社交業	福岡県	中洲のスナックで老舗ということもあり、旅行社や他県の同業者からの紹介が最近多く、年末、年始に売上が伸びた。また、新規の顧客を連れてリピートしてきている。その理由を聞くと「博多中洲の歴史ある盛り場の情報等を知りたかった」方が多く、地元の魅力を再度認識して商売に活かす事が大切と考えている。
その他飲食店	滋賀県	ソムリエ資格取得後、ワインに合うおつまみも取り入れて月1回の夜「ワイン&カクテルバー」をオープンしました。そのおかげで売上が10%伸びた。
その他飲食店	長崎県	カントリー&ウェスタンの営業スタイルが顧客の嗜好にあって、定期的にライブも実施し好評である。また、店内完全禁煙が認知され、非喫煙者が安心して来店してくれる。
食肉販売業	福岡県	最高級牛の「佐賀牛」を新たに取扱に追加した結果、得意先に好評で合わせて新規顧客の開拓にも効果がでている。現在も問い合わせが続いており、来期もリピーターとして売上に反映されると期待度は高い。
食鳥肉販売業	香川県	原材料の上昇分、価格転嫁ができず収益面で悪化が見られる。人件費圧縮で悪化分をカバーし、通年で乗り切れた。
氷雪販売業	東京都	暖かくなって氷の需要が増えることを祈って好転にしました。また、今の閑散期を利用して従業員が積極的に営業活動を行っているのも、そちらも実を結んでくれたらと思います。

業種	都道府県	内容
理容業	千葉県	バリアフリーの店にして店舗入口、トイレを広く取ったお蔭で車椅子のお客様が増えた。このことが市のホームページで紹介されたり、少しずつ効果が上がっている。
美容業	奈良県	暖房による乾燥を気にするお客様が多かったので、保湿に特化したトリートメントやオイルのキャンペーンを行ったら、予想以上の反響があった。
映画館	岐阜県	毎年この時期は動員が低迷する時期である。しかし地元の「岐阜新聞」とタイアップした企画「岐阜新聞映画部みんとクラブ」と銘打って、アート系作品の宣伝に協力いただくこととなったので期待はしている。
ホテル・旅館業	愛媛県	去年は遍路道開場1, 200年、道後温泉開湯3, 000年のミレニアム年であり、活発な周知活動やイベントを開催した。外国人観光客の増加と相まって順調な予約状況となっているが、顧客単価の低下がみられる。
公衆浴場業	徳島県	店舗新築時に、マイクロバブルの浴槽を取り入れたところ、お客様に好評である。また新築を機に店内を禁煙にしたので、子供づれのお客様達に喜んでもらえ、ファミリー客や若い層のお客が増加しており、売上は順調に推移している。
クリーニング業	茨城県	顧客は他店ではできないサービスを求めている。とくに和服の手入れや染み抜きを任せられる店舗を探している。HPを利用して遠方から来店する顧客があるので、さらに技術力向上に努めたい。